

寄贈品コーナー

# 2009年度新着収集資料展 人文部門

平成22年4月1日(木)  
～4月29日(木/祝)

昨年度に寄贈を受けたり収集して新たに加わった博物館資料を公開します。

歴史部門では、戦前の暮らしや戦争関係の資料が主に寄贈されました。そのなかから、「ある平塚市民の生涯と戦死」と題して、昭和20年8月、フィリピンにおいて23歳で戦死した篠原正志氏の成長と戦死にいたるまでを写真や遺品で紹介するほか、戦争中、中国大陆で収集された伝単ビラのコレクションなど新たに収蔵した資料を展示します。

民俗部門では、この1年に31件275点の資料を受け入れました。大半が市民の皆さまの寄贈によります。展示した主な資料を挙げると、寺田縄の小泉茂氏から寄贈された半切桶があります。従来館蔵していた半切桶は個人で所有し使用したものでしたが、寺田縄の桶は5人の氏名が墨書され、5軒で共有していたことが特色です。味噌造りの時季になると、5軒を順々に回して、桶の中で大豆を踏みつぶしました。この5軒は隣近所の家々で、田植えも共同でおこなう関係でした。かつて近隣が互いに助け合い、密接になつなっていたことを示す資料といえます。その他、土屋上惣領の石黒家からは醤油絞りの箱、肥樽、サンダワラ編み機など、今まで館に無かった資料が寄贈されました。横浜町の堤勝氏からは戦前に実践女学校生が授業で製作した着物や布団のミニチュア、秦野市堀西の杉崎敏子氏からは母屋の解体にともない大神宮祠や神札などが多数寄贈されました。



23歳で戦死した篠原正志氏

